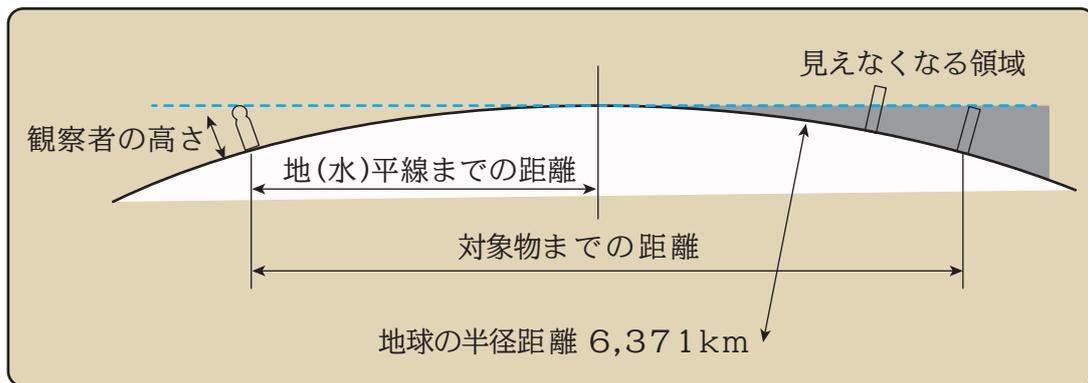


## 地球が球体ではないことを証明する無数にあるうちの一つの証拠 part2



富士山から 323 キロ、那智勝浦で撮影

この写真が撮られたのは和歌山県那智勝浦町の小麦峠(現在は色川富士見峠に改称)。富士山頂からの距離は 322.9 キロ。2001 年 9 月、アマチュア写真家の仲賢さんらが 700 ミリ相当の望遠レンズで撮影した。「3 年がかりで現地に 20 回以上も通い、やっと成功した」と振り返る。

天候や季節によって三重県の伊勢などから富士山が見られることは古くから知られていた。近年になって和歌山の一部からも見えると分かり、何人ものプロ・アマの写真家が撮影に挑戦。小麦峠は色川富士見峠と呼ばれるようになった。同町によると「最も遠くから富士山が見える場所」という。



東京の高校の地理教諭、田代博さんが制作した「富士山可視マップ」。全国の富士山が見えるスポットを網羅し、一目で見えるかどうかを判別できる。山岳マニアの田代さんは1980年代にマップを制作、地理雑誌で発表した。初めは地図上の任意の地点と富士山頂を一直線で結び、間にある山々の標高を計算して「可視」を判断。気の遠くなるような作業を重ねて完成させた。



さて、現在のところ、富士山が見える最も遠いところとなっている富士見峠からの写真ですが、この富士見峠の標高が正確に分からないので、検証できませんでしたが、これ以前に撮られて、遠方第一位の座を明け渡した、那智勝浦町 妙法山からの例で検証してみることにしましょう。

妙法山 標高 749m

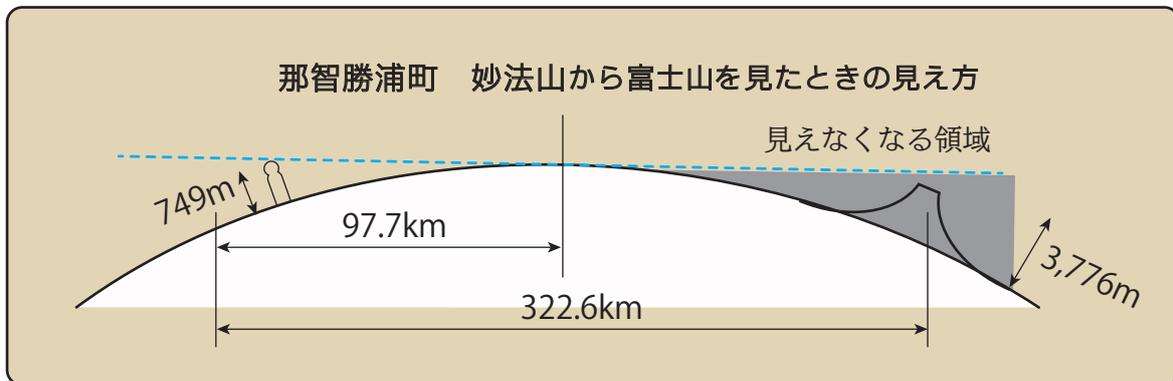
富士山までの距離 322.6km

富士山の標高は 3,776m

このデータを元に曲率を当てはめて富士山のお見え方を検証すると次のようになります。

地平線までの距離 97.695031km

隠れる部分 3968.4897m となりますので、富士山は 192m も地平線の下に隠れ、100%見えないはず。



しかし実際には、この距離からもその全容が撮影されています。



この写真には次のようなコメントが付されています。

1997年1月には妙法山から富士山を撮影しました。下がその写真です。

ここから富士山が見えるのは、高い山脈などの障害物がないためです。

実際に妙法山から富士山を見るためには、その場所から富士山までの間に雲がでていない日（天気がいい空気の澄んだ早朝が良い）を選ぶことが必要です。

1999年元旦、日本テレビの「ズームイン朝」で、当日の夜明けに妙法山から見えた322.6km先の富士山の映像がテレビ放映されました。

妙法山（標高749m）から楠本弘児氏撮影

これが何を物語っているかと言えば、「地球は球体である」という通説、常識が全くの嘘だと言うことです。

これは、地球がフラットであるという無数に存在する証拠のほんの一つです。